

一般調査報告書
次世代を担う若者の国際交流事業について

4月は、年度替わりの時期となる日本人コミュニティにとっては駐在員や帯同家族の交代など、比較的大きな変化があった1か月でした。気候も次第に暖かくなり、国内の観光地には多くの人が訪れるようになってきました。最新技術の発展によって、実際に現地を訪れなくても、様々な感覚で実際の感覚に近い体験ができる機会が増えていますが、それでも、リアルに物事に触れ、感じるのは格別な感覚を与えてくれると、実際の体験をするたびに感じます。

その最たる例が、人と人との交流ではないでしょうか。特に、混沌とした国際情勢の中、人々が国境を越えて理解し合うためには、直接の交流が望ましいのは論を待ちません。特に、経済的に密接なつながりがあり、複雑な歴史を共有する日本と中国においては、未来志向の若者たちの交流が何より大事なのではないかと思います。

幸いにして愛知県は、友好提携関係にある中国広東省との間で、本年3月末、広東省政府の協力のもと、両地域間の高校生交流事業を実施することができました。本事業は正に将来の日中関係を支える要となる人材を育成する極めて重要な事業であると認識し、当事務所も全面的に協力させていただきました。今回は、この将来の日中関係を支える若者たちの交流事業について、ご報告したいと思います。

【県が注力するグローバル人材育成事業の一環として高校生を海外に派遣】

愛知県と広東省は、2013年に「友好交流及び協力関係を発展させることに係る覚書」を締結し、交流を推進してきました。両地域間の主な交流事業として、「愛知県高校生交流事業」があり、これまでに2015年2月、2016年7月、2019年1月と3回、広東省からの高校生を受け入れ、2018年3月には愛知県の高校生を広東省に送り出しました。そして2019年5月、両地域はそれまでの友好交流をさらに発展させることを目的に、友好提携を締結しています。その後新型コロナウイルスが全世界的に広がったことなどで直接の交流事業は途絶えていましたが、今回、久しぶりの高校生交流事業の再開となりました。

なお、この愛知県高校生交流事業は、県内のあいちスーパーイングリッシュハブスクール事業拠点校（県内の英語教育の拠点として愛知県教育委員会が指定する高校）の生徒と提携先の高校生が互いの地域の文化や風土などに触れることにより、理解を深め、両地域の更なる交流の発展を図るために始まった事業です（2023年度からは「あいちリーディングスクール」事業として発展しています）。中国・広東省以外にも、タイ・バンコク都、韓国・京畿道とも同様の事業を実施しています。

今回の事業では、上述の県内10校から、それぞれの学校内での選抜プロセスを勝ち残った10名の高校生が、中国の地を踏みました。

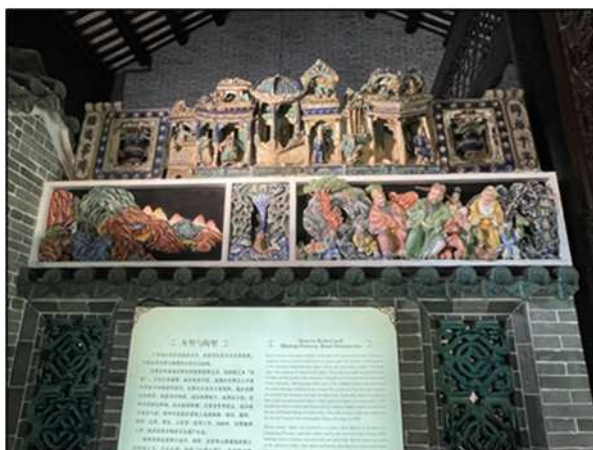
【隣国の壮大な歴史と産業発展を学ぶ】

訪問団がまず訪問したのは、陳家祠と呼ばれる清朝期に建てられた廟兼書院で、前院、後院、西院と中庭を挟んで立ち並ぶ建物は、天井が高く、風通しがよい伝統的な広東式建築で、それぞれ廊下で結ばれています。ここは中国で最も保存状態の良い南方様式の建築物の1つで、複雑に構成された独特の書院は現在では非常に貴重な存在とのことでした。学生が特に注目したのは屋根上部に設置された繊細な装飾で、それら全てが陶磁器によるものとの説明を聞き、瀬戸焼、常滑焼などを擁する愛知県の産業との関連について思いをはせていました。

また、訪問団は広州に隣接する仏山市を訪問し、実際に稼働していた窯を視察し、同地における窯業の歴史を学ぶとともに、陶芸体験も行いました。

中国は日本と比べても非常に長い歴史を有しており、日本は中国から多くの文化や技術を学び、自国のそれに活用しています。日本の文化・産業の多くがそのルーツを中国に抱えていることから、現地を実際に訪問し、「類似の中の相違」と「相違の中の類似」を発見する中で、日中双方の文化や産業への理解と尊敬の念が生まれると期待しています。

陳家祠の屋根上の装飾は高い技術と芸術性に溢れる



(写真は全て筆者撮影)

広東省仏山市は陶磁器が有名



【ハイライトはホームステイと学校訪問】

高校生交流事業の最大の目玉はやはり何といてもホームステイと学校訪問です。この2つの行事はセットとなっており、訪問団は広東省政府庁舎で開催されたホームステイ受け入れ家族との対面式後、各メンバーがそれぞれのホストファミリー宅（訪問先の学校の生徒宅）で週末を過ごし、週明けに一緒に訪問先の学校に登校するというものでした。

ホームステイについて、各メンバーに週末をどのように過ごしたか聞いてみると、観光スポットの訪問に始まり、餃子などの中国料理を一緒に作ったり、図書館を訪問して勉強したり、伝統的な中国服とメイクを体験したりと、多くの有意義な経験を積んでいるようでした。また、複数の家庭では、やはり日中関係や歴史についての議論もあったようです。通常の旅行や出張では政治的な話題は避けるべきというのが定説ですが、やはり高校生同士の純粋な心で思うところを議論し合うのは、互いの価値観や教育について関心を高める良い機会であり、相手の立場に立って考えるという視座を与えてくれる有意義な時間だったのではないかと思います。

ホームステイ後、訪問団はそれぞれのホストファミリー宅から「広東実験中学（中国では「中学」は通常、中高一貫校を意味する）」に登校し、同校での学生交流活動に参加しました。同校は広東省教育庁が直轄する重点中学で、中国全国でも有数の進学校です。当日は同校の生徒会含め多くのグループが訪問団を受け入れ、日本語と中国語の漢字をマッチさせるゲームなどと一緒にいき緊張をほぐし、限られた時間を有効に使ってコミュニケーションをとっていました。引率者の1人として筆者は様子を見守っていましたが、日中双方の優秀な若者が英語・中国語・日本語を駆使して会話を弾ませ、短い時間にSNSの連絡先などを交換し、事業終了後の再会を誓い合う姿などを多くみることができました。その後、訪問団は同校にて中国料理（伝統的ジュース作り）体験、書道体験、音楽体験などを行ったほか、英語と体育の授業では同校の生徒と一緒に授業に参加し、活発に発言も行っていました。

なお、高校生同士の直接の交流をみて興味深かったのは、彼らの話題の共通項として日本のアニメが頻りに登場したことです。互いに好きなアニメなどの話題になると、生徒たちは嬉々とした表情で熱のこもった会話を展開していました。アニメを筆頭とする日本のコンテンツ産業が世界的に人気となって久しいですが、その存在感は依然として大きいということを痛感しました。世界的な人気を誇る日本のアニメは、国境や世代を超えた、人と人との相互理解に大きな役割を果たしているようです。

ゲームで緊張をほぐし、交流開始



伝統的ジュース作りの様子



英語の授業。交流対象でない生徒も見学を希望し廊下に殺到



体育では卓球などに挑戦



日本とは異なる書き順に戸惑う



【「改革・開放」のシンボル都市・深センも訪問】

広東実験中学の訪問後、訪問団は広州市から深セン市に移動しました。深センは中国を代表する IT 企業であるテンセント社（中国などにおける主要 SNS プラットフォームである「WeChat」を開発）、通信機器大手のファーウェイ社、自動車メーカーで日本にも進出した BYD 社などが本拠地を置く、世界でも有数の最先端分野での企業集積地です。ここでは、そうした企業に優秀な人材を多く輩出する深セン大学を訪問し、大学生との交流を図るとともに、深セン市改革開放記念館にて、かつては小規模な農村に過ぎなかった深センが、わずか 40 年で人口 1,400 万人を超える巨大都市に急速に成長を遂げたことなどについて学びました。さらに、夢を抱いた前途有望な若者が起業したロボット製造企業「UBTECH」も訪問し、世界最先端を走る同社のロボット技術を見学し、実際に音声コマンドでロボットに指示を出したり、握手をしたりと、体験型の交流も行いました。

深センは、鄧小平氏が唱えた社会主義の政治体制と資本主義の経済システムを両立させる「改革・開放」政策のシンボルとなるべく開発された都市で、世界第 2 位の経済大国にまで成長した中国の成功の証ともいえる地域です。その圧倒的なスピード感を、大学や博物館、企業を訪問することで、多角的に感じる

ことができました。筆者自身も、初めて深センを訪問した際にはその発展のスピードに驚愕したのを覚えていますが、訪問団メンバーからも発展のスピードへの強い印象が語られていました。

限られた時間でも、すぐに打ち解け人脈を形成



改革・開放前の香港(左)と深セン(右)の対比展示

ロボット企業「UBTECH」にて記念撮影



【現地で活躍する愛知県企業も訪問】

訪問団が最後に向かったのが、広州市に拠点を構えるトヨタ自動車（广汽豊田）です。同社では、現地で活躍する愛知県企業の代表格として、その生産現場を見学するとともに、日中協業の背景（かつて自動車産業は外国企業の単独進出が認められず、中国企業との合弁が義務付けられていました。現在、同規制は撤廃）や現状、将来の見通しなどについて学ぶことができました。

同社からの説明で、トヨタグループの中で広州工場は工場単体としては同グループ最大級の規模（年間約100万台を生産）であること、訪問団メンバーからは、国際ビジネスを行う際の心構えや、国境を超えて人と人が協力し合うことのメリット・デメリット、グローバル人材になるために必要なことなどについて質問が飛び交い、対応いただいた日本人スタッフや中国人スタッフの皆さんから、実に興味深い回答も飛び出しました。

日中協業の実情についても議論



広東省は自動車産業の集積地



【将来の愛知を支える人材の今後に大きな期待】

今回、当事務所としては、上述の愛知県企業の訪問アレンジと、移動中のバス内での中国情報の共有、当事務所の事業説明などを訪問団にさせていただきました。そうした中で特に印象的だったのが、メンバーである高校生の皆さんの積極的な「学びの姿勢」でした。筆者の説明に対して関心を持った部分については色々な質問を投げかけるメンバーも多く、その鋭い視点に筆者が回答に困る場面も多々ありました。そんな彼らの将来に大きな期待を抱かずにはいられません。

日中関係は、米中摩擦の影響もあり、困難な状況が続いています。ですが、こうした草の根の交流を地道に続けることで、将来の日中関係を支える懸け橋となる人材を育成することは、現在のこうした状況だからこそ、重要性を増していると感じます。今回の事業でつなげることができた日中の絆はわずかな「点」にすぎませんが、こうした国際理解が面的に広がって行けば、いずれ国家間関係にも良い影響を及ぼすのではないかと期待します。

愛知県上海事務所としては、中国進出愛知県企業のサポートや日中企業間のマッチング、対日投資誘致、観光誘客などの主要業務と同様に、こうした若者の人的交流事業についても、上述のような目的意識を持って、地道ですが着実に、実施してまいります。

参考：最近の中国内の主な動き

4月12日 中国税関総署が発表した2024年3月の貿易統計（速報値、以下同）によると、輸出額は前年同月比7.5%減の2,796億8,170万米ドル（約42兆8,200億円）だった。マイナスは23年10月以来。前年同月は10%以上増加しており、その反動とみられる。なお、自動車などの品目は伸びた。

4月16日 中国国家统计局の発表によれば、2024年1～3月期の国内総生産（GDP）は、物価変動の影

響を除いた実質で前年同期比 5.3%増加した。伸び率は前期の 5.2%から拡大。市場予想（4.6%）も上回った。不動産不況は続くものの、投資の伸びが全体をけん引した。

- 4月18日 中国国家統計局は同日、学生を含まない年齢層別の 2024 年 3 月の全国都市部調査失業率を発表した。16～24 歳の失業率は 15.3%だった。2月から横ばい。
- 4月22日 中国国家発展改革委員会は 22 日、「新エネルギー車（NEV）」を巡る今年の価格競争が「異常な激しさを示している」と指摘した。今後も販促などのさまざまな形で値下げ競争が進むとみている。
- 4月29日 中国国家エネルギー局は、今夏の全国の最大電力負荷は前年同期から 1 億キロワット（kW）以上増加するとの予測を発表した。内モンゴル自治区と華東、華中、西南、南方地域の一部で一時的に電力需給が逼迫する恐れがあるとみている。

愛知県上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、上海産業情報センターが、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。